

北海道内におけるホームレス支援施設利用者の支援に関する研究

— 障害者手帳の取得状況と入所に結びつく要因に着目して —

北海道大学大学院教育学研究院 山口 大輔 (008184)

[キーワード] ホームレス支援施設、障害者手帳、障害福祉制度

1. 研究目的

本研究の目的は、北海道内におけるホームレス支援施設利用者について、広義の障害の状況（障害者手帳の取得の有無・取得時期と障害の疑いの有無）と施設入所に結びつく要因を明らかにし、障害福祉をめぐる支援・制度のあり方を考えるための手がかりにすることである。

2. 研究の視点および方法

本研究では、広い意味でホームレス状況に至っている人に対して、障害福祉制度が機能していない実態を考えるための第一歩として、障害福祉の支援・制度を受けるための前提条件となる障害者手帳の取得状況を明らかにする。具体的には、ホームレス支援施設の入所以前から障害者手帳を取得していた利用者の割合と、入所以前から「障害」があるにも関わらず、障害者手帳を取得していない（取得できていない）利用者の割合について示していく。

本調査では、北海道内のホームレス支援施設利用者の現状を把握した上で、利用者の広義の障害の状況と入所に結びつく要因を明らかにすることを目的として、調査協力の同意を得られた北海道内の7か所のホームレス支援施設に転記票調査を実施した。調査方法は、北海道内のホームレス支援施設において、利用者の支援に従事する支援者の方が、調査実施者が用意した転記票に、利用者個々のケース記録を基に転記して頂く方法を取った。転記の範囲は「2015年6月30日（現時点）」に北海道内のホームレス支援施設を利用している利用者全員とした。調査項目は、基本属性（性別、年代、利用形態、利用期間、健康状態、最終学歴等）、就労経験、収入状況、入所直前の生活場所、入所につなげた人や機関、障害者手帳の取得状況、障害の疑いの状況、精神疾患・発達障害の診断状況、支援課題である。

3. 倫理的配慮

本研究では、ホームレス支援施設の利用者と支援者の倫理的配慮のため、「北海道大学大学院教育学研究院における人間を対象とする研究倫理審査申請書」の審査を受け、承認を得ている。

4. 研究結果

まず、利用者の性別は、男性が87.1%（316人）、女性が12.9%（47人）であり、利用者の年齢層は幅広いが、特に、高齢層に多い割合を占めている。

利用者全体からみて、「障害あり」の事例は35.0%（127人）を占めており、性別からみると「障害あり」の利用者は、男性が32.9%（104人）、女性が48.9%（23人）となっており、特に若年層に多い割合を占める。また、「障害あり」の事例のうち、ホームレス支援施設の入所前から障害者手帳を取得していた事例は30.7%（39人）であり、入所前から「障害」があるにも関わらず、障害者手帳を取得していない事例は48.0%（61人）である。

次に、「障害あり」の事例のホームレス支援施設の入所に結びつけた人・機関をみると、性別によって違いがみられた。男性の事例は、「民間のホームレス支援施設」や「福祉行政機関」のような支援機関から入所に結びついていた。一方で、女性の事例は、「家族」や「知人友人」のようなインフォーマルな人間関係から入所に結びつくパターンが示された。

さらに、「障害あり」の若年層の事例に着目した上で、障害者手帳の取得状況から、入所に結びつく要因をみると、以下のような特徴が確認された。

第一に、「入所前」から障害者手帳を取得していた事例では、障害福祉制度につながった場合、入所直前の生活場所が「障害福祉施設（グループホーム・障害者支援施設）」であり、障害福祉制度に一時的に結びついているが、結果的には、ホームレス支援施設に行き着いていた。また、障害福祉制度につながらなかった場合は、「家族」によって支援が代替されており、「家族」からホームレス支援施設の入所に結びついていることが示された。

第二に、入所以前から「障害」があるにも関わらず、障害者手帳を取得していない事例では、本来、必要であった障害福祉の支援を受けてこれなかった状況を意味しており、「司法施設」経由で入所に結びついている事例や他の「民間のホームレス支援施設」から入所に結びついている事例が示された。

第三に、障害者手帳を取得していないが、障害の「疑いあり」・精神疾患の「診断あり」の事例では、「自宅（一人暮らし）」から「本人」によって入所に結びつくパターンが示された。

5. 考察

まず、入所以前から障害者手帳を取得していた事例では、障害福祉制度につながったとしても、「一時的な結びつき」にとどまっており、結果的に、障害福祉の制度化された支援・サービスから離れるかたちで、ホームレス支援施設に行き着くという状況が考えられる。

次に、「障害あり」の事例の性差に着目すると、女性特有の事例として、「知人・友人」からのインフォーマルな人間関係・支援関係が入所に結びつく要因になっていた。また、本研究で示された女性にみられるインフォーマルな人間関係・支援関係の結びつきは、先行研究で描かれてきた広い意味でのホームレスの女性の特徴と類似していることが分かる。